

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月26日
札幌市立藻岩北小学校

1 本年度の重点目標

「あこがれ」と「思いやり」でつながる藻岩北小学校～子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりの推進

2

○子どもたちへの8つの問いかけを核とした子どもの育成
 ○自ら心を動かし 自信をもって行動できる子の育成

3 自己評価に対する学校関係者評価

[達成状況] 目標に達成した…A 概ね達成した…B 改善を要する…C [自己評価・改善策の適切さ] 適切である…A 概ね適切である…B 適切でない…C

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学ぶ力	①毎日の授業を「子どもが分かる・できた・楽しい」学習になるように努めながら、進んで学ぶ子どもを育て、基礎基本の力の充実を図っている。	A	中・高学年での専科指導や、出前授業や校外学習の活用などにより、子どもの興味を引き出したり、学力の向上につながったりする成果が見られた。引き続き、授業力向上のための研究推進を行ったり、外部機関の効果的な活用を図ったりしていきたい。	A	A
	②学校と家庭での学びをつなげ、学習習慣(家庭学習など)が身に付くように、家庭と協力しながら進め、自ら学ぶ力を育てている。	B	保護者アンケートで、肯定的な回答の数が昨年度よりやや下がっている。一方で、学校と家庭をつなぐ宿題・家庭学習の進め方の具体例があがっていたので、職員間で情報共有をしながら、学校と家庭で連携した学習の進め方を探っていく。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業や校外学習の活用など、子どもの興味を引き出すなどはとてもよいと思います。学校と家庭で連携した学習の進め方を探っていくことは、大切なことだと思います。 ・先生方の一生懸命な姿には頭が下がります。 ・教科的には専門的に経験を重ねてきた先生の方が教えるコツみたいなものをもって、児童への指導に効果的に働くこともあると考える。それぞれの先生の得意分野などを指導に生かしていただくよいのではと考える。 ・中学校においては、基礎的・基本的な学力の定着が課題となっています。学校での授業には主体的に取り組む様子が見取れますが、家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多いことがアンケート調査結果からわかっています。小学校においても、引き続き課題探究的な学習に取り組み、児童生徒が主体的に学び続けることができることを共に目指していきたいと考えています。 			
豊かな心	③あいさつや言葉づかい、表情や動き等に、思いやり・やさしさが表れる子どもを育てている。	A	特にあいさつ運動において高い評価をいただいている。教職員の指導のみではなく、子ども発信で行っているこの活動は、札幌市で推進している「自治的な活動」ともつながるものであり、引き続き子どもたちの自主性を大切にしながら活動を支えていきたい。	A	A
	④いじめを許さないという指導、一人一人のよさを認め育てる指導、子どもの心に響く指導に努め、子どもの自信を育む学校・学級づくりをしている。	A	日常の様子や児童・保護者アンケートの回答から、「いじめを許さない」「仲間を大切にしよう」という意識が子どもたちに育まれているのがうかがえる。また、「こびっしり活動」を中心とした異年齢交流についても高い評価をいただいている。本校の重点目標「あこがれ」と「思いやり」でつながる藻岩北小学校の実現に向けて、本校の強みとして今後も大切にしていきたい。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動が身に付いているので、校内でもきちんとあいさつをしてきて、頼もしい姿が見られます。 ・朝のあいさつも大きな声で「お疲れ様です。」「いつもありがとうございます。」と言ってくれました。嬉しかったです。 ・あいさつなどの礼儀や態度などは、子ども同士の関係性にも影響すると考える。押し付けではなく、心が育つような取組をしていくことが必要かと思う。 ・日頃の授業とともに、学校行事や様々な直接体験活動から、個として、集団の一員として学ぶことがたくさんあると思います。児童生徒がこれらの活動に主体的に参加し、そこから学んだことを振り返り、次の活動や学年に活かし、一人一人が成長できることを期待しています。 			
健やかな体	⑤なわ跳び運動などの取組を継続しながら、運動習慣づくりに努めている。	A	運動機会の創出(すこやかデー、跳び箱週間などの取組)を心掛けてきたが、一定の成果が得られている。一方で、保護者アンケートと児童アンケートで肯定的な回答の数に開きがあり、放課後や休日の際の運動機会に課題があると考えられる。	A	A
	⑥健康・衛生管理などを通して、自分の身を自分で守っていく意識を高める子どもを育てている。	A	養護教諭・栄養教諭による専門的な指導や出前授業の効果が出ている。引き続き、専門性を生かした指導や外部機関の効果的な活用を図ってほしい。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣はとてもよいことだと思います。休日や下校後など、ゲーム・パソコンをよくしているという話も耳にすることが多いような気がします。 ・幼児期は体を動かすことを好み、いろいろなことに挑戦する意欲もありますが、児童は優劣が付くようになることも要因ではと思いますので、誰でも取り組める縄跳び運動などはとてもよい取組だと考えます。 ・本校の取組とともに、藻岩高校とのつながりによる取組が充実していることが特長だと思います。次年度から実施されるコミュニティ・スクールにおいて、益々発展することを願っています。 			
安心・安全な学校づくり	⑦子どもの安全意識を高める災害・防犯・交通安全などの指導に努め、保護者や地域と情報を共有しながら、事故防止に取り組んでいる。	A	児童・保護者の両アンケートで肯定的な回答が多く、安全に生活しようとする意識が育っていることがうかがえる。一方で、本校校区には道路事情が悪く危険箇所がいくつかあるので、安全意識を高める指導を学校・家庭・地域で連携して行っていくことが必要である。	A	A
	⑧子どもが、心配事を減らし安心して学校生活を送ることができるよう支えている。	A	こちらも児童・保護者ともに肯定的な回答が多かった。「一人一人の居場所がある」といったご意見をいただいているが、引き続き困りを抱えている子どもに寄り添い、安心して過ごせる学校づくりに努めていく。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの安全意識は身に付いてきていると思います。先に車へ「どうぞ」と譲る姿も見受けられます。困りを抱えている子どもに寄り添うことは大切なことだと思います。 ・毎朝、校長先生をはじめ職員が出て交通安全指導をされているのには頭が下がります。子どもの命に係わる仕事は本当に神経を使います。どうか警察や公的機関も汲み取ってより安全な通学路になるようにしていただきたいと思っています。 ・酷暑、クマ、大雪などの対応とともに、地震や大規模停電による避難所開設など、学校に求められることが多くなっています。これもコミュニティ・スクール導入とともに、地域やパートナー校と連携した実践的な避難訓練なども今後の検討事項としていただきたい。 			